

令和5年度 高田保育園自己評価・学校関係者評価報告書

令和 6年 4月 15日

社会福祉法人高田福祉事業協会 高田保育園

1. 本園の教育保育目標

「ほとけの子を伸び伸びと育てる」

義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、0歳児から小学校就学前までの園児の成長を見据え、教育並び保育を一体的に行うことを目標とする。

1. 命の尊さと生きる喜びを感じとる
2. 身近な自然や社会の恵みに感謝する
3. みんなと仲良くし、希望を持って生活する

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

1. 障がい児保育

統合保育を基本とし、配慮を必要とする子どもに対して担当加配保育士を配置し共に成長し合える環境をつくる。

2. 子育て支援活動・病後児保育所との連携

園見学者などを対象に子育て応援者として悩みを傾聴し、あるいは経験を活かしたヒントを提供するなど、安心できる子育ての環境をつくり、令和6年度から開始する地域子育て支援拠点事業へとつなげる。また、病後児保育所の存在とその役割を伝える機会を増やし、子育てと就労の両立支援を行う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	・個々の特徴を捉えた療育支援の実施(統合保育と分離保育の調和)について	A	・個別カリキュラムの作成(音楽療法を含む) ・保育カンファレンスの開催(療育担当者・加配保育教諭・クラス担任等)
2	・子育て支援活動 ・病後児保育所との連携	B	・年間を通じた見学者の受け入れ(約100人) ・職員を効率よく配置し、より専門性の高い保育を行う

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	1. 園内療育室(かめ)の利用希望が増え、保護者からも高評価を得ている。療育時の様子を配信し、子どもそれぞれの成長が感じられるだけでなく、療育担当職員やクラス担任との交流から前向きに就学を考えていただくことができた。
B	2. 見学者が延べ人数で100人を超えていたが、主幹教諭を中心に丁寧な対応を心がけた。地域に根差したかわりができた実感できた。 一方、病後児保育所に関しては、感染症の流行や、距離の問題から職員の連携がスムーズにできないこともあり、今後の課題としたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題（自己評価について）

職員の自己評価を行うにあたり、「自己評価とは」何のために行うのかを改めて問いかける必要があると感じた。ひとり一人が意欲をもって、仕事が楽しいと思いながら取り組める環境であるのはもちろんのこと、更により専門性を深めた保育・教育の実践が実現できるように、自己の内面にアプローチする余裕が必要であると思う。ただ自己評価表にチェックするだけでは何の意味もなく、回答に対して意思があってほしいと感じるが、そう感じるのは、まだまだ職員の多くは、義務的に自己を評価しているに過ぎないのであろうとも思う。自己評価の内容をより分かりやすく、それぞれの働き方に即したものにすることも必要である。また、自分の向上のための自己評価であり、保育園の向上のための学校評価であるという意識を定着させたい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

令和6年4月15日(月) 午後7時から 評価委員6名の出席をもって 評価会議を実施。

- ・令和5年度事業計画
- ・令和5年度施設関係者評価結果
- ・令和5年度職員自己評価結果
- ・令和6年度事業計画
- ・子育て支援センター「のんの」開設事業計画及び広告パンフレット
- ・保護者会開放のんの
- ・保育園のしおり

上記の資料を基に、事業の実践経過報告並びに評価結果についての感想を含めた課題を園長が述べる。

これに対し

評価委員の方々より

- ・それぞれの評価結果やアンケート結果を選択式だけでなく、回答理由を記述できるようにする方が今後につながるのではないかと。
- ・職員全員が園長の意見や提示することに賛成しているわけではないかもしれないから、ALLで きているにはならないのが当たり前。子どもたちの様子を見ている限り、高田保育園には満足しているし、問題なく、努力の成果が結果として出ていると感じる。
- ・他園に子どもを預けている友人などからは、園に対する不満をたくさん聞くが、高田保育園はそんな話しは一切なく、それはやはり職員が頑張っているから。むしろ、先生たちの息抜きができていのか心配になるくらい。
- ・先生たちがいつも笑顔で挨拶してくれる。迎えに来た時も「おかえりなさい」とどの先生も声をかけてくれることは、保護者にとってとても嬉しいことだと思う。
- ・子どもたちが元気で生き生きしている。先生たちの立ち振る舞いや目線から、園児に対する愛情をすごく感じる。

など、あたたかいお言葉をいただき、6名の評価委員全員の評価として

A 十分達成できている

をいただいた。

- B おおむね達成できている
- C 達成できているが課題もある
- D 取り組んでいるが成果が不十分である
- E 取り組みが不十分である

令和6年度の事業計画について説明をし、新たな取り組みとしての地域子育て支援拠点事業についてもご理解いただく。

約2時間たくさんのお話を頂戴しました。これからも、反省と改善を繰り返し、地域に必要とされる高田保育園であり続けたいと改めて感じました。ありがとうございました。